

ガーナでそろばんプロジェクト60号(2017年2月10日)

★★ いまの願いは……パトリックに想うこと…… ★★

2017年新年のそろばん教室は、4日より始まりました。新春はじき初めに来た生徒は、いつものメンバーであるコンスタンス、パトリック、ダバス、ギデオオン、セデムの5人です。学校が長期休みに入ると家の事情で村を離れる子どもがいる中、こうして教室に来てくれることはとても嬉しいことでもあります。また、自らが学びたいという思いで来る子どもたちなのでよけいにうれしくなります。前号でもお伝えしたコンスタンスは、1月もめきめき上達しました。速くなった上に正解率も良くなってきていることに本人もとてもうれしそうにしています。子ども自らがこうした自分の変化に気づくことはとても嬉しいことです。継続は力なり。この言葉を実体験できるのがそろばん教室なのだ改めて嬉しく思うのです。コンスタンス、ギデオオン、セデムは現在中学2年生。コンスタンスの兄のパトリックは中学3年生。ダバスは中学1年生。ガーナの高校受験は毎年6月に行われています。受験を迎える時期になると教室への足が遠のいてしまうのがこれまでの課題です。これまでも、マイそろばんを手にしたプリンシラ、ホープ、ギルバード、3級までいったブラザー、デイビット、クレナムは高校受験、受験後は村を離れて高校の寄宿舎に入るために教室をやめてしまいました。プリンシラは“お父さんが高校受験をするからそろばん教室は止めなさいと言ったからもう行かない。”と自ら私に言ってきたのでした。そろばん教室に通うようになってから計算が出来るようになったんじゃないのとても複雑な気持ちになったものでした。受験勉強をする時期であっても高校の寄宿舎に入っても教室に来て欲しい…ずうっと願い続けていますが、これだけはどうか願っても叶いそうにありません。叶わないことはわかっているのですが、パトリックに先日6月になっても続けるように伝えました。パトリックの返事もそれを聞いた弟のコンスタンスの返事もYESでしたが、このYESはガーナ人文化の人の

残念がらせないためのYESでしょうか。それとも本当に来る気持ちでYESとえたのでしょうか。正解は6発にならないとわかりませんが、今の私に出来ることは6までにそのパトリックにマイそろばんを持たせることです。

あと4か月、かけ算九九の暗記が少し怪しくて3枚1セットの練習プリントをするのにまだまだ時間を要するパトリックに、マイそろばんを持っている子どもたち全員が経験した“出来るようになった喜び”を感じてほしい。弟のコンスタンスは、おそらくこの調子でいけば2月か3月には、“褒美のマイそろばんを手にする”ことでしょう。そのコンスタンスが今感じている“計算が速くなったうえ正解率も増えた”という嬉しさを感じてほしい。ひと踏ん張りもふた踏ん張りもしてほしい。今はそう願わずにはいられません。

報告 TOSHIKO

